岐阜県感染症発生動向調査　（2018 年第 40 週～第 43 週分、10 月分）コメント

平成 30 年 11 月 21 日
月番：加藤達雄

＜全数把握対象疾患＞

・　一類感染症については、発生報告は無い。
・　二類感染症については、結核の累計報告数は減少しており、特に潜在性結核感染症が大きく減少している。結核患者は 80 歳以上の高齢者が半数以上を占める。
・　三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が 6 例みられたが、大規模な発生事例はない。
・　四類感染症については、レジオネラが 5 例の報告がみられる。本年の累計は、前年の同月までの累計と比較して多い。
・　五類感染症については、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）が今月は 6 例見られた。後天性免疫不全症候群の報告が、今月の報告は多くなかったが、前年同期までの累計と比較し増加している。梅毒は前年並みの報告数が続いている。百日咳は今月 12 例と多く報告された。当県でも風しんは 5 例と急増しており、本年の累計ですでに 9 例が報告された。麻しんの報告が 1 例みられた。

＜定点把握対象疾患＞

・　A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月と比較して増加している。
・　伝染性紅斑は、前月比で約 1.7 倍に増加しており、前年よりもかなり多い
・　流行性角結膜炎は、34 週より増加していたが、今月は前月よりさらに増加しており、前年よりも多い
・　マイコプラズマ肺炎が前月より 3 倍に増加している。

・　結核は、減少傾向にあるが、高齢者を中心にコンスタントに結核患者が報告されており、特に医療機関や福祉施設での早期発見が重要であり、注意喚起・啓発が必要である。
・　風しんは全国的な流行がみられているが、当県においても多く報告されており、県民への注意喚起が必要である。
・　A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎が増加傾向であり、県民への注意喚起が必要である。